

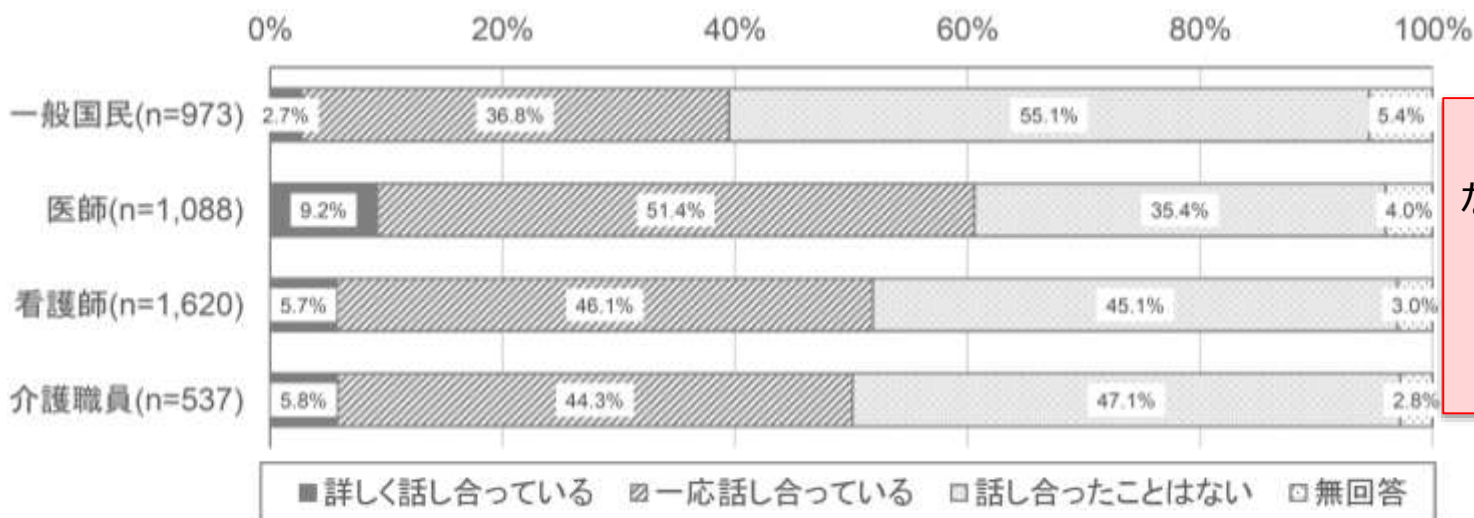
# 人生の最終段階における医療に関する意識調査(平成30年3月)

## (2) 人生の最終段階における医療について家族等や医療介護関係者との話し合いについて

問2 あなたの死が近い場合に受けたい医療・療養や受けたくない医療・療養について、ご家族等や医療介護関係者とどのくらい話し合ったことがありますか。(○は1つ)

※「ご家族等」の中には、家族以外でも、自分が信頼して自分の医療・療養に関する方針を決めて欲しいと思う人(知人・友人)を含む。

ご家族等や「医療介護関係者と話し合ったことがある(詳しく話し合っている、一応話し合っている)割合は一般国民では39.5%、医師60.6%、看護師51.8%、介護職員50.1%であった。(図1-1-2)



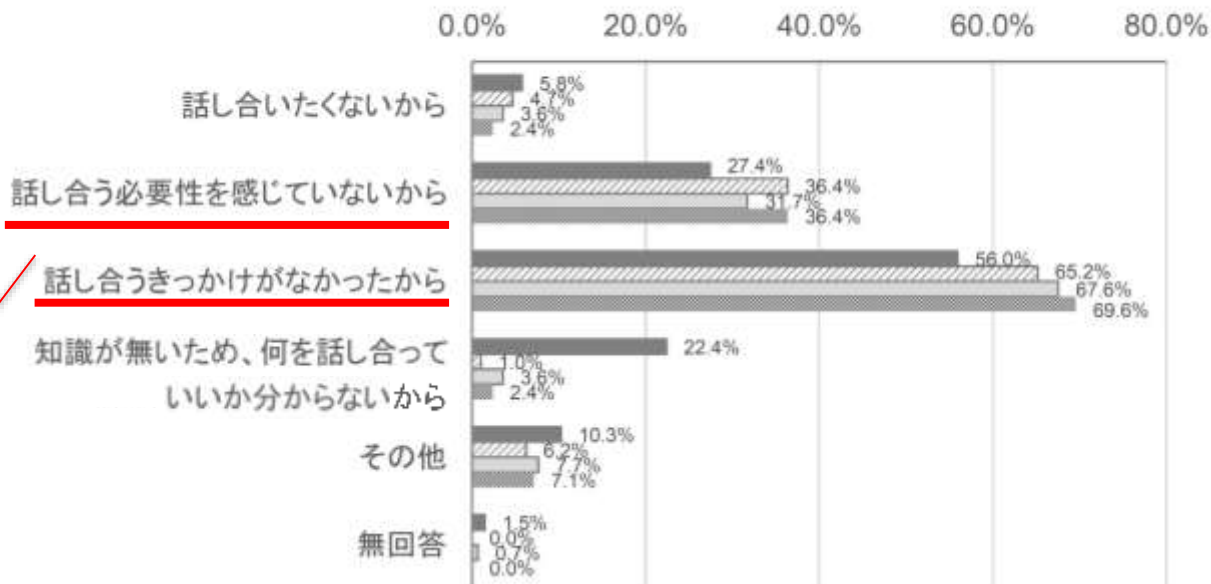
一般国民もさることながら、専門職でも、話し合っている人の割合は決して多くないのが現状。

十分に話し合いされていないのはなぜでしょうか。



## (2-2) 話し合ったことがない理由

■一般国民(n=536) □医師(n=385) □看護師(n=731) ■介護職員(n=253)



過半数が、「話し合うきっかけがなかった」と回答。

また、医療介護職においても、「話し合う必要性を感じていない」と回答している方も多い。

本当に話し合う必要がないのでしょうか。こんな時に困ったことはありませんか？

病気で倒れて意識不明に。どこまで延命治療を希望していたのだろうか…救急隊に聞かれてもわからない…

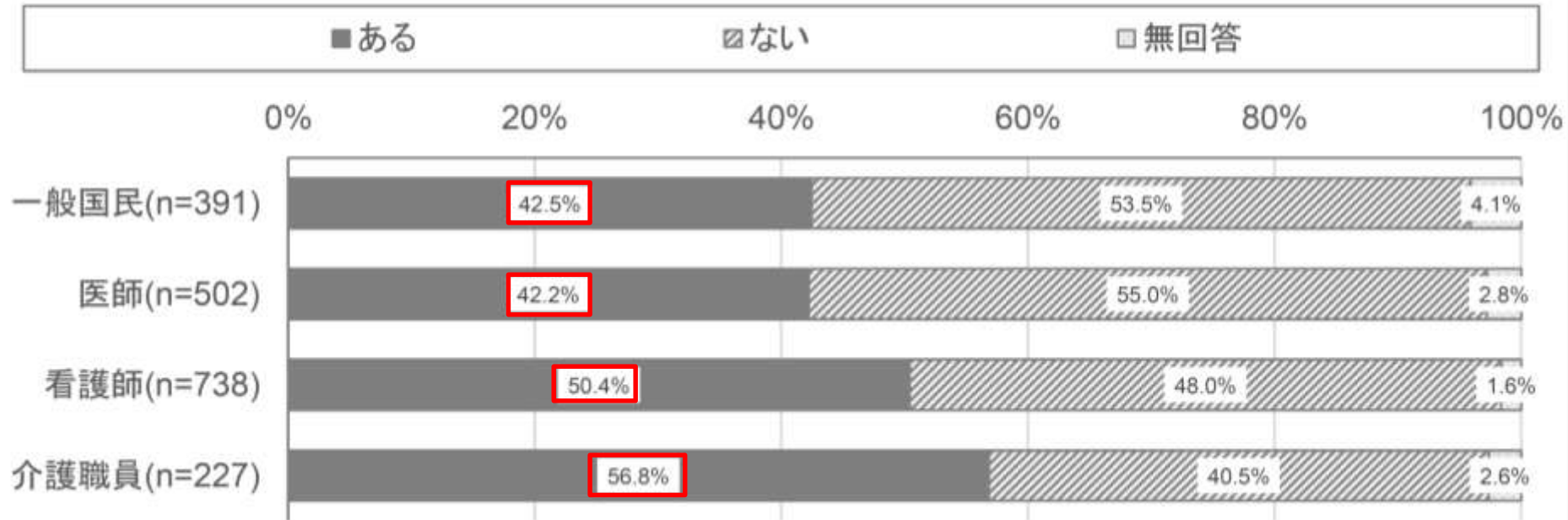
徐々に食事がとれなくなり、胃ろうを勧められた。どうしたらいいだろうか…

施設で入居者本人の意向確認が十分に行われないうまま、状態が悪くなり、家族とも折り合いがつかない…



意思決定支援の必要性を専門職が理解し、タイミングを見計らいながらきっかけを作っていくことが必要！

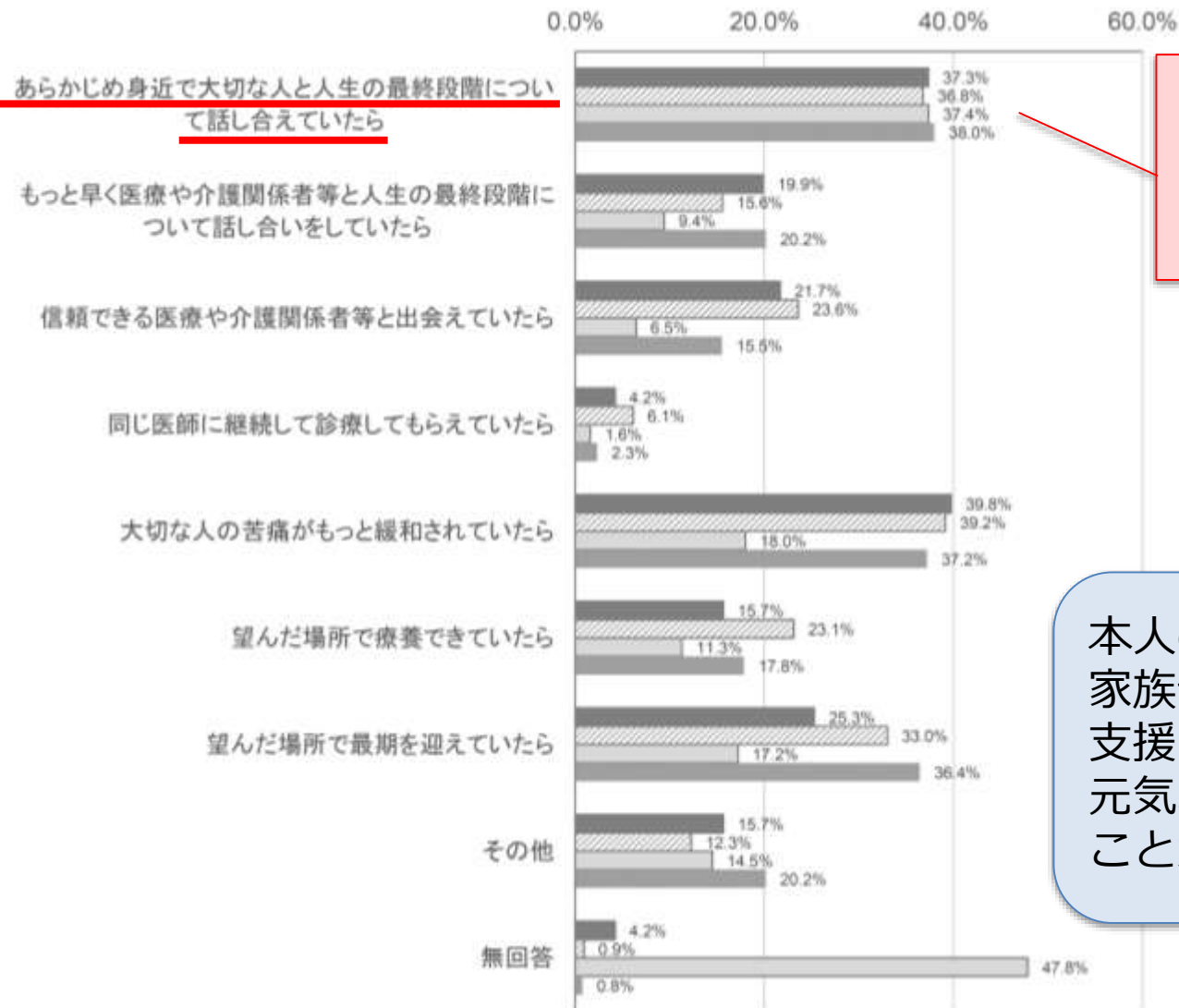
(7-1)大切な人の死に対する心残りの有無(身近な人の死を経験された方が対象)



約半数の方が「心残りがある」と回答しているのは一体なぜ？

(7-2) どうしていたら心残りがなかったか(心残りが「ある」と回答の方が対象)(複数回答)

■ 一般国民(n=166) □ 医師(n=212) ▨ 看護師(n=372) ■ 介護職員(n=129)



「もっと話し合えていたら」  
家族や周囲の方の後悔が  
少なかったかもしれない。



本人のため、  
家族や身近な方のため、  
支援する医療介護職のために、  
元気なうちに話し合っておく  
ことが大切！